

## 第百九十六話 ベストセラー作家の日本人処方箋

「日本人とユダヤ人」を著した著名な評論家である山本七平（1921～1991）は、大東亜戦争に砲兵少尉として参戦し、捕虜となった。その山本氏の著作「日本はなぜ敗れるのか 敗因 21 カ条」が角川書店から 2004 年に発行された。

日本人論の決定版とも称される該書の要点を紹介したい。己を見直す参考として貰えれば幸甚である。帯(裏)には、「ベストセラー「日本人とユダヤ人」で有名な評論家山本七平は戦時中フィリピンで生死を彷徨い捕虜となった。戦後三十年、かつての敗因と同じ行動パターンが社会の隅々にまで覆っていることを危惧した山本七平が、戦争体験を踏まえ冷徹な眼差しで書き綴った日本人への処方箋が本書である。(以下略)」

1 裏カバーには、以下の六カ条が、「日本が敗者になる理由は・・・？日本人論の決定版」の項目として記載してある。本 6 か条は、敗因 21 カ条とは別であるので、それをまず記す。

- ・非常識な前提を「常識」として行動する
- ・生命としての人間を重視しない
- ・「芸」を絶対化して合理性を怠る
- ・「動員数」だけをそろえて実数がない
- ・恐怖心に裏付けられた以外の秩序がない
- ・自己を絶対化するあまり反日感情に鈍感である



- 2 敗因 21 カ条(本条は、故小松真一氏(本書第 1 章の登場者:陸軍専任嘱託で技術者、比島で終戦捕虜収容所で苦勞して「慮人日記」を著し、戦後発行、本書 35～37p)
- ・精兵主義の軍隊に精兵がいなかった事。然るに作戦その他で兵に要求される事は、全て精兵でなければならぬ仕事ばかりだった。武器も与えずに、米国は物量に物言わせ、未訓練兵でもできる作戦をやってきた。
  - ・物量、物資、資源、全て米国に比べ問題にならなかった。
  - ・日本の不合理性、米国の合理性
  - ・将兵の素質低下(精兵は満州、支那事変と緒戦で大部分は死んでしまった)
  - ・精神的に弱かった(一枚看板の大和魂も戦い不利となるとさっぱり威力なし)
  - ・日本の学問は実用化せず、米国の学問は実用化する
  - ・基礎科学の研究をしなかった事
  - ・電波兵器の劣等(物理学貧弱)
  - ・克己心の欠如
  - ・反省力なき事
  - ・個人としての修養をしていない事
  - ・陸海軍の不協力
  - ・一人よがりな同情心が無い事
  - ・兵器の劣悪を自覚し、負け癖がついた事
  - ・バークシー海峡の損害と戦意喪失
  - ・思想的に徹底したものがなかった事
  - ・国民が戦争に厭きていた
  - ・日本文化の確立なき為
  - ・日本は人命を粗末にし、米国は大切にした
  - ・日本文化に普遍性なき為
  - ・指導者に生物学的常識がなかった事

\* 確かに耳の痛い話もある。自省の参考になれば幸いである。

(第百九十六話 了)